

総合計画実施計画 (令和6～8年度) 策定方針

総合政策部 政策審議室

本市が将来にわたって持続的に発展していけるよう、本格化する人口減少や人口構造の変化など様々な時代の潮流に的確に対応しながら、計画的で戦略性の高い行政経営を展開していくため、**「第6次総合計画後期基本計画」に掲げた施策・事業をどのように実施していくかを明らかにし、もって予算編成及び事務執行の指針とするもの**

構成	事業計画及び財政計画
期間	令和6年度から令和8年度までの3か年

3. 今回の計画の性格

「第6次宇都宮市総合計画後期基本計画」（計画期間：令和5～9年度）で掲げた、目指すまちの姿である「スーパースマートシティ」の実現に向け、重点的な取組として位置付けた「まちづくり好循環プロジェクト」や「戦略事業」をはじめとする施策・事業の具体化を図り、基本計画の実効性を高め、着実に推進するための実施計画とする。

後期基本計画に掲げた
取組を着実に具体化

令和5

6

7

8

9

10

12

後期基本計画

施策目標
の達成

SSCの
実現

R4年度 実施計画

R5年度 実施計画

4. 本市を取り巻く状況

【国等の動向】

(1) 少子・超高齢社会の急速な進行

- ・ 我が国のこども（15歳未満）の数は42年連続で減少，特に2000年代に入ってから出生数が急速に減少し，そのスピードも加速化し続けており，総人口の将来推計は50年後に現在の約7割に減少すると見込まれている。
- ・ 一方で，総人口に占める高齢者は過去最高を更新し続けており，3人に1人が高齢者となる時代は目前となっているが，平均寿命と比べ健康寿命の伸びが大きくなるなど，元気な高齢者が増加傾向にある。

(2) 不安定な世界情勢下での経済の見通し

- ・ 経済動向については，雇用や所得の環境の改善により緩やかな回復が続くことが期待されているが，物価の高騰や円安等の影響に十分注意する必要があるとされている。

4. 本市を取り巻く状況

(3) ポスト・コロナへの対応

- 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法に基づく位置づけが5類に変更となり，社会経済活動の正常化に向け，一段と弾みがつくことが想定される中，**個人消費の持ち直しやインバウンドの回復・拡大が期待される一方**で，**「孤独・孤立」「デジタルデバイド」**など顕在化した諸課題への対応が求められている。

(4) 国際的な課題の解決に向けた気運の高まり（G7広島サミットの開催）

- 令和5年5月に「G7広島サミット」が開催され，国際社会が直面する様々な課題について幅広く議論が交わされたところであり，**特に環境分野においては，声明の中にエネルギー部門の脱炭素化と再生可能エネルギーの展開の加速などが盛り込まれるとともに，同サミットにおいて，カーボンニュートラルの実現に向けた本市の取組が国内外に広く情報発信された。**

4. 本市を取り巻く状況

(5) 男女共同参画・女性活躍に向けた機運の拡大

- ・ 「G7広島サミット」に合わせ、本県においては令和5年6月に「男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」が開催され、**男女間の賃金格差などの経済面でのジェンダー格差解消が喫緊の課題**とし、**女性やLGBTなど性的少数者の人権と尊厳が尊重される社会の実現へ努力を続けること、女性がデジタルなどの成長産業に参入できるよう、教育やリスキリングの機会を増やすことなどが共同声明で発信**されたところであり、これを契機に、男女共同参画・女性活躍に向けて、より一層機運が高まり、取組が加速されることが期待されている。

4. 本市を取り巻く状況

(6) 国による経済財政運営等の基本方針の提示

- このような中、国においては、令和5年6月に「経済財政運営と改革の基本方針2023」を閣議決定し、成長と分配の好循環を目指す「新しい資本主義」の加速化を図るため、**リスキリングをはじめとした「人への投資」の強化**や**「官民連携による国内投資拡大とサプライチェーンの強靱化」**、**「スタートアップ・イノベーションの推進」**、**「GX・DXの加速」**、**「インバウンド戦略の展開」**などに重点的に取り組むとともに、**「こども・子育て政策」**を最も有効な未来への投資であるとし、政府を挙げて取組を抜本強化し、**少子化傾向を反転させる**としている。
- また、「新しい資本主義」の重要な柱の1つである**「デジタル田園都市国家構想」**により、**社会課題の解決や魅力的な地域づくりをデジタルの力を活用して行い、地方創生に取り組むこと**としている。

5. 本市のまちづくりの基本的な考え方

(1) スーパースマートシティの実現

- 本格化する人口減少，少子・超高齢社会においても，本市が持続的に発展していくため，概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿として，「子どもから高齢者まで，誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ，夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現を目指し，国際目標であるSDGsの達成にも貢献していく。
- 住み慣れた地域で安心して暮らせる「NCC」の形成をまちづくりの基盤としながら，「人」と「デジタル」を原動力に，絆を深め，共に支え合う「**地域共生社会**」，人・モノ・情報が行き交う「**地域経済循環社会**」，CO2排出量を実質ゼロとする「**脱炭素社会**」の3つの社会が融合した都市の構築に取り組む。
- その具現化に当たっては，「**まちづくり好循環プロジェクト**」に位置付けた，効果が高い先導的な取組や，複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組を重点的に実施していく。

5. 本市のまちづくりの基本的な考え方

(2) まちづくりの原動力となる「人」づくり, 「デジタル」活用の推進

- 原動力である「人」づくりを推進するため、**次世代育成・少子化対策を強化**するとともに、**スタートアップ支援**や**イノベーションの創出**をはじめ、目まぐるしい**社会環境の変化に対応できる知識やスキル**を身に付けることのできる**「リカレント教育」**や**「リスキリング」**の推進に取り組む。
- もう1つの原動力である**「デジタル」**の活用を推進するため、地域社会全体のデジタル化の推進や行政DXの実現に向け、官民が連携し、**市民の誰もがデジタルの恩恵を享受できる環境**を構築していく。



別紙 1

「『SSC』で実現する暮らし」のイメージ

別紙 2

「まちづくり好循環プロジェクト」の位置づけ等

【施策・事業の選択の考え方】 1 / 2

本年は，ポストコロナ時代の到来や男女共同参画・女性活躍推進の一層の機運の高まり等に加え，全国初の全線新設となるLRTの開業を迎える，節目のタイミングであることから，市民・事業者等のまちづくりに対する意識や行動の変容が見込まれるとともに，国内外から本市に注目が集まることが期待される。

⇒ この機を捉え，市民が，いつかまだ先のことだと思っていた未来都市や新しいまちの暮らしを実感できるよう取り組むとともに，「宇都宮」ブランドを高め，国内外に広く発信できるよう，「まちづくりの基本的な考え方」を踏まえた上で，優先化・重点化を図りながら，施策・事業を導出する。



6. 本市の現状・課題，優先的に取り組む施策・事業の方向性

【施策・事業の選択の考え方】 2 / 2

- ・ スーパースマートシティの実現に向け，都市の装置としてのLRTをフル活用し，(1)「地域共生社会」・(2)「地域経済循環社会」・(3)「脱炭素社会」の構築と，その基盤となる(4)「NCC」の形成を更に前進させるため，これらに資する取組に優先化・重点化を図る。
- ・ また，まちづくりの原動力として，「デジタル」を活用していくことを基本とし，将来のうつのみやを担う「人」づくりを強化していく。
- ・ 複雑，多様化する市民ニーズに的確に対応するため，分野横断的な取組を(1)～(3)の3つの社会ごとに取りまとめた「まちづくり好循環プロジェクト」に資する取組を優先的に推進する。

(1) 【地域共生社会】



《ア. 少子化対策》

- 本市においては、**婚姻数・出生数の減少率が全国を上回り、少子化が国よりも急速に進行**している。また、人口構造に目を向けると、**子育て世代に転出超過の傾向**がみられる状況にある。
⇒ **結婚や妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実に取り組むとともに、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取り組む必要がある。**
- このような中、子どもを守る社会の実現に向け、地域社会が一体となり、子どもたちが人間力を高めながら、安心して健やかに成長できるまちを実現するため「**(仮称)子どもを守る都市宣言**」を制定し、市内外に広く発信することとしている。
⇒ **子どもを守り・育てる行動を実践できる社会の実現に向け市民一人ひとりが主体的に取り組む必要がある。**

社会全体で子育て家庭を支える支援の充実

(1) 【地域共生社会】 《イ. 男女共同参画・女性活躍推進》

- ・ 本市においては、「夫は仕事，妻は家庭」といった固定的性別役割分担意識について，否定的に考える市民の割合が増えており，男女共同参画意識が高まっているが，いまだ**性別役割分担意識が根強く残っている**。
⇒ **固定的性別役割分担意識の解消，企業における経営者や管理職の意識改革，女性のキャリア形成支援に取り組む必要がある。**
- ・ また，男性が育休を取得しづらい理由として，「職場に取得しやすい雰囲気がない」や「周囲の人に迷惑がかかる」と考える市民の割合が多い傾向にある。
⇒ **女性の経済的自立や活躍，男性の家庭参画を含めた環境づくりに取り組む必要がある。**

社会全体で男女共同参画・女性活躍を推進する環境づくり，支援の充実

(1) 【地域共生社会】 《ウ. 健康寿命の延伸》

- ・ **本市においても健康寿命は延伸傾向**であるが，生活の質の向上や地域の活性化等に向け，引き続き健康寿命の延伸に取り組むことが求められている。
- ・ また，人生100年時代においては，すべての人が元気に活躍し続け，安心して暮らすことのできる社会をつくることが求められている。
⇒ **生まれ育った環境に左右されることなく夢を実現できるように，多様な場所や手段で学びや体験を得られる環境を充実していく必要がある。**

様々な分野で活躍できる人材育成・確保に向けたリカレント教育の推進 等

- ・ さらに，本市の持続的な発展の礎となる市民のウェルビーイングの向上と更なる健康寿命の延伸のための生きがいきづくりや交流の場の充実など，これまで以上に**健康づくりに取り組みやすい環境整備**が求められている。
⇒ **子どもから高齢者まで，市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境の実現に向けて取り組む必要がある。**

いつまでも健康で，生き生きと暮らし，活躍できる社会の実現

6. 本市の現状・課題，優先的に取り組む施策・事業の方向性

(1) 【地域共生社会】 《エ. 市内外におけるつながりの強化》

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大は，移動の制限や活動自粛，地域イベントの中止など，数々の影響をもたらし，地域コミュニティや日常的な住民のつながりを希薄化させ，**「孤独・孤立」などの問題を顕在化**させている。
- ・ また，国による高度外国人材の呼び込み等が進む中，在住外国人の増加と国籍や職業などの多様化が進んでいることから，**多文化共生の重要性がより高まっている。**
⇒ **デジタルデバイドに配慮しつつ，コロナの状況下で進展したデジタルを活用しながら，人と人とのつながりや絆を大切に，外国人も含めた住民同士の支え合いを広げていく必要がある。**

みんなで地域を支える仕組みづくり

(2) 【地域経済循環社会】



《ア. 産業・商工・農業》

- ・ 国は「新しい資本主義」を加速させるため，GXやDXへの投資を掲げている。さらに，サプライチェーンの強靱化に向け，企業の国内回帰が期待される中，**本市においても今後の経済成長への期待が高まっている。**
- ・ 一方で，人手不足や長期化する原油高・物価高などへの課題解決に向けては，**リスキリングによる人材の確保や，デジタルの活用による労働生産性向上**などが求められている。
⇒ **新たな成長産業の育成や集積，本市の産業を支える中小企業や食を支える農業分野の更なる成長に向け，デジタルの活用などにより，地域経済の好循環を加速化していく必要がある。**

- ・ **地域経済を牽引する企業立地の促進と定着促進に向けた拡大再投資への支援**
- ・ **GX・DXによる産業振興**
- ・ **イノベーションの源泉となる人材の確保・育成**
- ・ **女性や高齢者，障がい者など，世代や分野を超えて，誰もが働きやすい労働環境の整備とデジタル人材の確保**

(2) 【地域経済循環社会】 《イ. 観光・魅力》

- ・ 新型コロナウイルスが5類感染症となり，インバウンドをはじめとした観光需要の本格的な回復が期待され，**LRTの開業によるヒト・モノ・情報の集積への期待が高まっている。**
⇒ **本市特有の観光資源である「大谷」「プロスポーツ」などの本市の魅力を国内外に発信するとともに，周辺市町を巻き込んだ広域MICE等の推進など，さらなる誘客促進に取り組むことが必要である。**

交流・関係人口の拡大による地域経済の活性化

- ・ 本市の魅力あるスポーツ資源をフル活用し，地域の盛り上がりの創出に向け，プロスポーツチームとの連携を図りながら，年間を通したにぎわいの創出等を図っていくことが求められている。
⇒ **官民連携による新たなスポーツビジネスの創出・拡大など，スポーツによる本市経済・地域の活性化を強力に推進する必要がある。**

スポーツ資源のフル活用に向けた環境の整備

(3) 【脱炭素社会】



- ・ 「脱炭素先行地域」に選定されたLRT沿線での取組の横展開や，脱炭素型ライフスタイルの推進，宇都宮ライトパワー株式会社と連携した再生可能エネルギーの地産地消の推進など，**あらゆる部門における脱炭素化の推進**が求められている。

⇒ 100年先も輝き続けられる宇都宮を将来世代に残すことができるよう，カーボンニュートラルの実現に向け，全市一丸となって取り組んでいくことが求められている。

- ・ 官民連携による脱炭素化の促進
- ・ 行政における率先した脱炭素化
- ・ 市民一人ひとりの行動変容の推進

(4) 【NCC】1 / 2



《ア. 拠点化》

- ・ L R T 開業後に伴う停留場周辺地区においては、**都市部と農村部の交流促進など、地域の特性を生かしたまちづくり**を目指していくことが求められている。
- ・ 今後、供用開始を予定する東部総合公園を生かしたスポーツによるまちづくりを行い、**将来にわたってにぎわいあふれる都市の実現**が求められている。
⇒ **地域資源を生かした魅力ある L R T 沿線まちづくりに取り組む必要がある。**
- ・ さらに、**今後の駅西側への L R T 延伸**を見据え、都心部に魅力ある便利なまちの機能を充実させるなど、**緑あふれるウォーカブルなまちづくりを進め、都市拠点の強化**を図っていくことが求められている。
⇒ **L R T を基軸とした公共交通と一体となった都心部まちづくりや拠点形成の推進など、都市の風格と利便性を兼ね備えたまちづくりに取り組む必要がある。**

- ・ 駅東側の L R T を活用した沿線まちづくりの推進
- ・ 駅西側の L R T 整備を見据えたウォーカブルなゆとりあるまちなか空間の形成

6. 本市の現状・課題，優先的に取り組む施策・事業の方向性

(4) 【NCC】 《ア. 拠点化》 2 / 2

(再掲)

- ・ 国は「新しい資本主義」を加速させるため，GXやDXへの投資を掲げている。さらに，サプライチェーンの強靱化に向け，企業の国内回帰が期待されるなど，**本市においても今後の経済成長への期待が高まっている。**

(再掲)

- ・ **地域経済を牽引する企業立地の促進と定着促進に向けた拡大再投資への支援**

(4) 【NCC】 《イ. ネットワーク化》

- ・ また，本年は，LRTの開業をはじめ，**本市の公共交通を取り巻く環境が大きく変化するタイミング**であることから，**誰もが公共交通の利便性を享受できる環境整備**が求められている。
⇒ 拠点間を便利で快適に移動できるよう，階層性のある「公共交通ネットワーク」の更なる強化に取り組む必要がある。

- ・ 駅西側のLRT整備の推進
- ・ 公共交通ネットワークの充実

《ウ. 安全・安心》

- ・ 近年の気候変動などにより，豪雨災害などが激甚化・頻発化している。
⇒ これらの災害に強い強靱なまちづくりをしていくことが必要である。

災害に強い強靱なまちづくり

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(1) 根拠に基づく施策・事業の立案，「アジャイル型」の施策・事業の推進

- ・ 施策・事業の検討に当たっては，十分なデータ等の収集・分析・予測を行い，根拠に基づいて事業を推進する，いわゆる **EBPM***を基本とする。

ただし，**事前に効果を検証する必要がある場合は，仮説に基づき，事業を試行的に実施するなど，柔軟に対応する。**

※ エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング（証拠に基づく政策立案）

- ・ さらに，その運用に当たっては，**施策・事業の到達目標は適切に設定した上で，本市を取り巻く状況は常に変化するものであることを前提に，短期間で立案，実行，評価，改善を繰り返す「アジャイル型」の施策・事業を推進していく。**

(2) 若年世代の意見の市政運営への反映

共創のまちづくりを進める「うつのみや未来創造プロジェクト」においては，若年世代ならではの自由な発想による「本市にあってほしい取組」の導出を目指しているが，**取組の内，速やかな実現を図るものについては実施計画の計上につなげていく。**

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(3) 時機を捉えた施策・事業の検討，既存事業の見直し

- ・ 将来のうつのみや像の実現に向けた施策・事業を検討しつつ，社会経済状況の変化や市民ニーズなどを踏まえ，**早急に対応する必要があるものについては，実施計画の策定を待たずに前倒しで対応する**など，時機を捉えて積極的に取り組む。
- ・ 施策・事業の立案に当たっては，**その効果を明らかにした上で，既存事業における効果を改めて検証し，より効果の高いものとなるよう必要に応じ見直しを行い，新規事業と併せて総合的に最適化を図る。**

(4) 広域的な視点からの施策・事業の検討

圏域の状況を的確に捉え，県や周辺市町等と連携しながら，相乗効果やスケールメリットが発揮できるよう施策・事業を積極的に検討し，本市の更なる交流人口の増加，や地域経済の活性化はもとより，**圏域全体の持続的な発展**にもつなげていく。

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(5) 持続可能な財政構造を踏まえた施策・事業の検討

国等の補助事業の積極的な活用による歳入の確保や財政負担の平準化などの視点から検討を行う。

(6) 多様な主体との共創，連携による施策・事業の検討

施策・事業の実施にあたっては，「市民，団体，事業者，行政」が持つ技術やノウハウなどの強みを活かす「共創・協働」，「公民連携」（PPP）を基本とする。

(7) 公共施設の老朽化を見据えた施策・事業の検討

- ・ 「公共施設等総合管理計画（後期計画）」に基づき，今後も維持すべき行政サービスを提供するため，長寿命化対策を行うとともに，老朽化が顕著な施設については，NCCの更なる推進に向けて，都市拠点やLR T沿線，公共交通によるアクセス性を踏まえながら，拠点への再配置や他の施設機能との集約・複合化を検討していく。
- ・ インフラの維持・管理においてもデジタルを活用したDXに取り組むなど，市民の安全・安心で豊かな生活の実現に寄与していく。

8. 策定スケジュール

令和6年 2月頃 計画の公表（概要版）

3 「スーパースマートシティ」で実現する暮らし

「スーパースマートシティ」が目指す将来のまちの姿をわかりやすくイメージできるよう、「スーパースマートシティ」を構成する3つの社会ごとに、宇都宮市に住む人々の暮らしに焦点をあてた複数のストーリーとして、「スーパースマートシティ」で実現する暮らしを紹介しします。

総合計画に掲げる取組を実行していくことで、市民一人ひとりの暮らしがどのように変化するのが、理想や期待も込めて描いています。

絆を深め、共に支え合う「地域共生社会」

① 様々な場所で、誰もがつながり、支え合える



小学2年生の鈴木さんには共働きの両親がいます。2人が仕事で帰りの遅いときは、放課後「宮っこの居場所」*で学校の宿題をしたり、遊んだりして過ごします。通ううちに、学年の違う新しい友達もできました。

時には、お母さんも一緒に「宮っこの居場所」に行き、おいしいごはんを食べながら保護者同士で談笑し、子育てや生活の悩みを共有しています。

中学3年生の渡辺さんは1年前から学校に行くことができていませんが、毎日、自宅でオンライン授業を受けています。オンライン上では自分の分身となるアバターを介して、他の生徒と話したり、先生に質問したりもできます。

学校に行かないことで学習の遅れに対する不安がありました。自宅にいてもしっかりと学習することができたため、少しずつ学校にも行けるようになり、来年からは希望する高校に進学することが決まりました。



小さいころから宇都宮を本拠地とするプロスポーツチームの応援をしてきた佐藤さんは、県外の大学に進学してからも、ファン同士で立ち上げたコミュニティに参加しながら、チームの応援を続けています。

このコミュニティでは、市内外の「宇都宮ファン」が交流しており、公式試合の時には必ずみんなで宇都宮に集まっています。大学卒業後も、引き続き「チーム宇都宮」の一員として宇都宮との関わりを続けたいと考えています。



* 宮っこの居場所：子どもや親が安心して過ごせる居場所

② 誰もが活躍でき、みんながまちづくりの主役に



東京から移住してきた小林さんは、駅に隣接した窓口で移住の相談をした際、居住地の自治会で運営しているアプリを案内されました。手続きが簡単だったので登録したところ、アプリでは、回覧板やイベントの予定など、住民同士で地域の情報が毎日更新されていました。

地域のいろいろな情報に触れるうちに、地域の人々や地域の活動が身近に感じられるようになった小林さんは、地域の一員として、自治会活動に積極的に参加しています。

高橋さんは大学に在学中にフィールドワークに参加した際に、地域の子育て世帯を支援するサービスを提供している斎藤さんと出会いました。

この出会いをきっかけに、自分も地域の困りごとを解決する仕事がしたいと考えた高橋さんは、大学卒業後、斎藤さんをはじめ、様々な人の支援を受けながらNPOを立ち上げ、居場所がない子どもが集まるカフェの経営を始めました。



③ 暮らしに安心と生きがい



福田さんは離れて暮らしていた母親に介護が必要になったため、宇都宮市に引っ越して子どもとの3人暮らしを始めました。職場が遠くなりましたが、テレワークで仕事を続けています。

はじめは介護・子育てと仕事の両立ができるか不安でしたが、民生委員さんや共生型の相談窓口の職員が定期的に相談ののてくられて、福田さんの家庭の状況に応じた支援の内容を検討してくれることで、十分な支援の手を借りることができています。

定年で退職した石川さんは、ある時、知人から紹介されたシニア向けの起業セミナー等への参加を続けるうちに、長年続けてきた仕事での経験や人脈などを活かして、自分も起業することを決めました。

他の起業家仲間との交流を深めながら準備を進め、ついに、起業家向けのコワーキングスペース*を利用して会社を立ち上げることができました。石川さんは、75歳を迎える今でも、生涯現役を目指して活躍を続けています。



* コワーキングスペース：リテライトオフィスの一形態であり、複数の企業がフリーアドレス形式で利用するオフィス。特に利用者間の連携・交流を促す特徴的な機能・空間等を有するオフィスあるいはスペースを指す。

人・モノ・情報が行き交う「地域経済循環社会」

①多様なライフスタイルが実現するまち



東京圏に住んでいた加藤さんは、宇都宮市でのテレワーク生活を体験する中で、交通手段が充実していることや、市内にイノベーション[※]を生み出す交流の場があり、全国から多様な人が集まっていることを知ったことで、移住を決意しました。

引越してきた今は、終業後や週末に異業種交流会などのイベントにも参加することで、移住前よりもコミュニティが広がり、働くことがより楽しくなりました。

保育園に通う子どもをもつ斎藤さんは、夫婦と子ども3人で市の郊外部に暮らしながら、まちなかで働いています。

通勤時には、配中アプリを活用した自動運転の地域内交通で子どもを保育園に送りつつ、LRTでまちなかまで移動できるので、朝の時間もゆとりを持つことができます。

夫婦共働きですが、お互いに柔軟な働き方をすることで、協力して子育てをしており、斎藤さんも仕事終わりに友達と食事を楽しむことができるなど、子育て、仕事、そして自分の時間もしっかり確保でき、心にも時間にもゆとりを持っています。



中学生の田中さんは、まちなかで開催される国際的なスポーツイベントを観戦したことをきっかけに、宇都宮をホームタウンとするプロスポーツチームのファンになりました。

チームの応援をする中で、同じチームを応援していた海外の人と意気投合したため、スポーツイベントが終わった後も、外国語の勉強をし、オンラインで交流を続けています。

来年は、まちなかのスポーツイベントだけでなく、餃子や大谷地域など、宇都宮が持つ観光資源と一緒に巡ることを企画しています。

②誰もが学び、活躍できる



市内の高校に通う青木さんは、小学校の授業などを通して地域の第一線で働く様々な大人の関わり合い、その体験の中で市の伝統工芸に携わる仕事がしたいという夢を持つようになりました。

親や学校の先生などの周りの大人たちは親身に相談にのり、応援してくれています。大学進学や卒業後の就職先も、市内には様々な選択肢があることも教えてもらい、育ったまちで夢をかなえるために日々努力しています。

市内に代々続く米農家の手塚さんは、新しいことにチャレンジしてみようと考え、今まで馴染みのなかったデジタル技術の活用についての講座への参加を決めました。

2年のカリキュラムを終えた手塚さんは、早速、オンラインで遠く離れた飲食店と取引を始めたり、水位や気温を遠隔で監視できる機器を導入したりと、デジタルを活用したサービスを展開することで、以前よりも売り上げを伸ばすことができました。



③人や企業が集まるまち



市内の企業を運営する菊地さんは、市内の他の企業とともに、様々な技術や製品を生み出してきました。近年は、東京の「宇都宮サテライトオフィス」[※]で東京圏の企業とも取引を始め、新たな製品やサービスを次々に展開しています。

この新サービスは全国的に評判となり、菊地さんの会社をはじめとする市内の企業と連携した製品やサービスの開発を希望する企業が宇都宮市に集まってきています。

大学の卒業を控えて就職活動中の阿久津さんは、就職サイトなどインターネットで検索をしている際、パナー広告に表示されていた宇都宮市の情報を何気なく見てみました。

阿久津さんは宇都宮市に縁もなく、就職先の候補に考えていなかったものの、情報に触れていくうちに、宇都宮市が最先端のデジタル・グリーン産業^{※2}が集まる、働くまちとして魅力あるまちであることを知り、宇都宮市の企業に就職することを決めました。



※ イノベーション：技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方や仕組みを取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと

※1 宇都宮サテライトオフィス：東京都港区の「CIC Tokyo」内に設置した本市の東京圏における交流・活動拠点
 ※2 デジタル・グリーン産業：デジタル技術に隣わる産業分野とエネルギーやモビリティなど、脱炭素に資する産業分野

CO₂排出量を実質ゼロとする「脱炭素社会」

①人にも地球にも優しいライフスタイル



大塚さんは、子どもと一緒に参加した環境学習講座をきっかけに、改めて環境問題に関心を持ち、地域の環境保全活動に参加するようになりました。

一緒に活動する地域の人から聞いた、物をシェアするサービスの利用も始め、子どもの服をシェアしてもらったり、自分も買わずにレトルト食品をシェアしたりしており、「もったいない」のころを通して、住民同士で支え合う繋がりも感じています。

大島さんが住んでいる地域では、最近、地域内交通や電動キックボードなど、様々な公共交通が充実してきたことから、思い切って購入後15年以上経過している自動車2台のうち1台を手放すことにしました。

今は、再生可能エネルギーで走る電動キックボードとLRTを使い、CO₂を排出することなく、快適に通勤することができます。



②脱炭素な暮らしを支えるまち



他都市で暮らしていた山口さんは、仕事がテレワーク中心になってきたため、妻の出身地である宇都宮市に転居してきました。新居は妻の両親の二世帯住宅で、ZEH^{※1}にすることにしました。

住んでみて、光熱費も思ったよりかからない上に非常に快適になったと感じており、高齢である妻の父も、寒い時期のヒートショックの心配も少なくなり、安心して暮らしています。

県外出身で、宇都宮市内の大学に通い始めた阿部さんは、まちなかにおしゃれなお店や緑があふれる広場があることに気がついてから、歩いて出かける機会が増えました。

そのうち、よく行くお店の店員さんや、いつも広場で思い思いの時間を過ごしている人たちと顔見知りになるなど、宇都宮で新しい出会いが生まれています。



③再生可能エネルギーを創り・使う



光熱費が気になり始めた中村さんは、昨年、ついに自宅に太陽光発電と電気自動車を導入しました。太陽光発電で余剰に発電した部分は「宇都宮ライトパワー」^{※2}に販売しており、公共交通の脱炭素化にも貢献しています。

太陽光発電で消費電力を賄えない夜間は、EVバッテリーの電力を活用し、日中創った電気を無駄なく活用しています。災害時など、電気が使えなくなってしまった場合にも、必要な電力を確保できています。

宇都宮市内で飲食店を開業した橋本さんは、環境に配慮した営業を目指し、店舗に太陽光発電を導入するだけでなく、エリア内にあるコージェネレーションシステム^{※3}から排出される熱を使った空調を採用しています。余分にCO₂を削減できた分は「クレジット化」^{※4}することでちょっとした収益を得ています。

他にも、宇都宮市産の食材やフェアトレード製品^{※5}を使うなど、徹底的に環境に配慮した経営が話題となり、市内外から多くの方が訪れる人気のお店になっています。

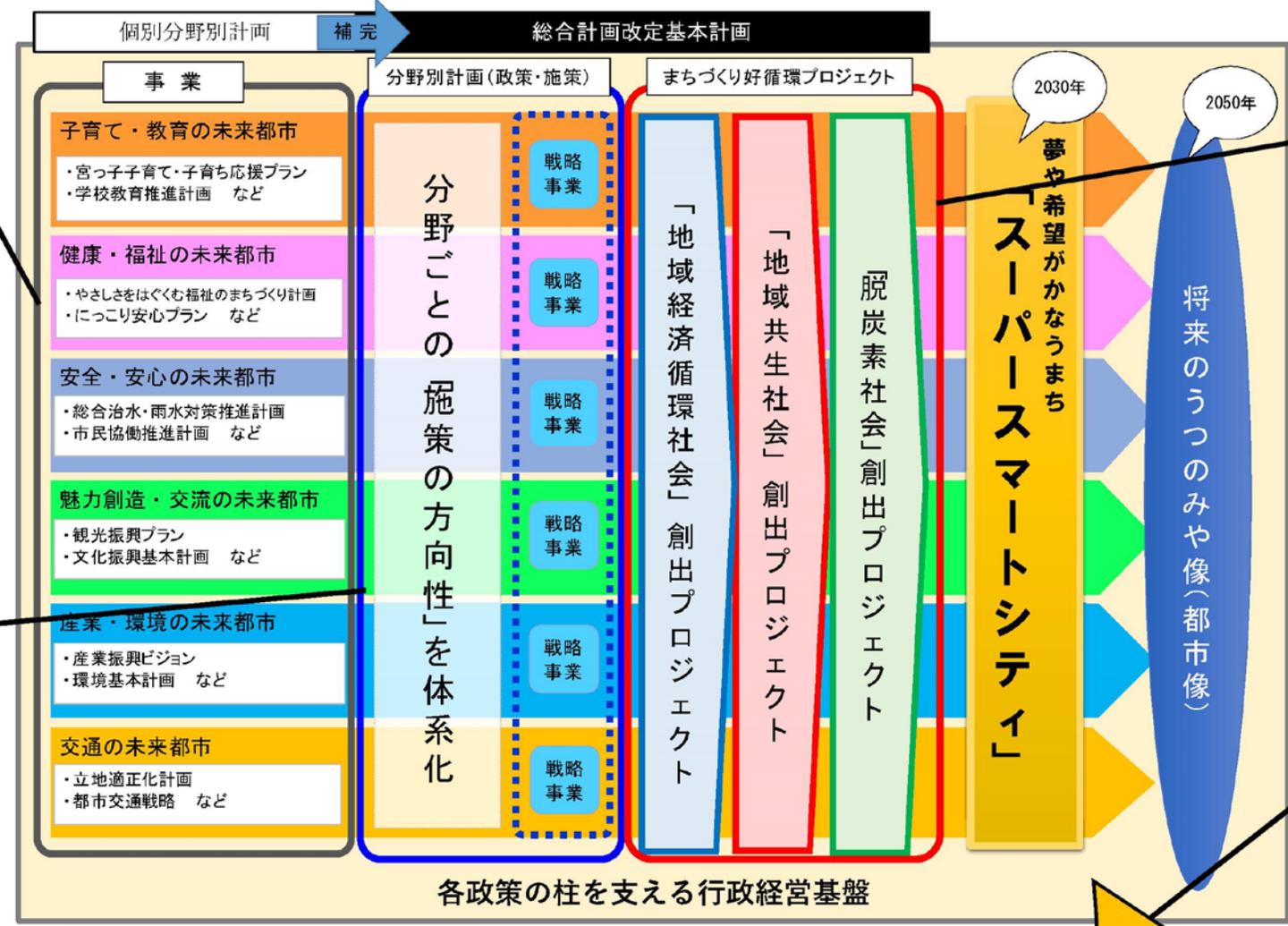


※1 ZEH：効率的な設備システムや再生可能エネルギー等を活用することにより年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目的とした住宅。
※2 宇都宮ライトパワー：宇都宮市と民間事業者の共同出資により設立した小売電気事業者と地域発元事業を行う地域新電力会社。
※3 コージェネレーションシステム：天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステム。
※4 クレジット：省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を、クレジットとして国が認証する制度。
※5 フェアトレード製品：開発途上の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する商品。

【将来のうつのみや像を達成するためのプロジェクト等の位置づけ】

個別具体的な事業は、総合計画を補完する個別分野別計画において推進

分野別計画については、基本構想に掲げる「まちづくりの基本方向（6つの未来都市）」により構成し、「戦略事業」と「施策の方向性」を体系化



複雑化・多様化する課題や市民ニーズに的確に対応し、まちづくりを加速化していくため、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに「まちづくり好循環プロジェクト」を設定

「スーパースマートシティ」の実現に向けた「原動力」である「人づくり」と「デジタルの活用」については、「まちづくり好循環プロジェクト」や戦略事業に積極的に取り入れていく。

【まちづくり好循環プロジェクト】

地域経済循環社会創出プロジェクト

取組テーマ①

多様な働き方ができる都市環境づくり

〈重点ターゲット〉

イノベーションの創出や人間性を高めることのできる空間

【横断プログラム】

- ◆ イノベーションを生み出す交流の場づくり
- ◆ ライフスタイルに応じた多様な働き方が叶うまちづくり

取組テーマ②

地域経済を支える多様な人材づくり

〈重点ターゲット〉

地域経済を支える多様な人材

【横断プログラム】

- ◆ 夢や希望に向かって挑戦する宮っ子を育む環境づくり
- ◆ 新たな仕事のスキルや知識を習得する機会の創出

取組テーマ③

各産業の強みを生かした持続的な産業構造の確立

〈重点ターゲット〉

グリーン・デジタル産業等の成長産業

【横断プログラム】

- ◆ リーディング企業等を中心とした新産業創出の促進
- ◆ グリーンやデジタルなど成長が見込まれる産業の集積、DXの推進

地域共生社会創出プロジェクト

取組テーマ①

地域共生の「場」づくり

〈重点ターゲット〉

子どもや若者

【横断プログラム】

- ◆ 子どもや若者の学びや体験を支えられる環境づくり
- ◆ 地域資源や地域特性を生かした交流の場づくり

取組テーマ②

地域共生の「人」づくり

〈重点ターゲット〉

新たな担い手

【横断プログラム】

- ◆ 若者の出会いや交流を通じた社会参加促進
- ◆ 地域課題の解決に向けた新たな価値の創出

取組テーマ③

地域共生の「仕組み」づくり

〈重点ターゲット〉

不安を抱える個人や家族

【横断プログラム】

- ◆ 市民の困りごとを丸ごと受け止める体制づくり
- ◆ 高齢者が元気で活躍しやすい環境づくり

脱炭素社会創出プロジェクト

取組テーマ①

スマート&ゼロカーボンムーブ

〈重点ターゲット〉

市内を移動する人

【横断プログラム】

- ◆ ライフスタイル転換によるスマートムーブの推進
- ◆ 公共交通と脱炭素モビリティの利用環境の整備

取組テーマ②

カーボンニュートラルなまちづくり

〈重点ターゲット〉

人が暮らす、過ごす場所

【横断プログラム】

- ◆ 脱炭素先行地域など、環境にやさしい都市基盤の整備とモデル地区の創出
- ◆ 建築物の脱炭素化の推進

取組テーマ③

再生可能エネルギー最大限導入・活用

〈重点ターゲット〉

エネルギーを創る人、使う人

【横断プログラム】

- ◆ 地域特性を活かした再生可能エネルギーの最大限導入
- ◆ 地域新電力を核とした再生可能エネルギーの地産地消の推進